

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 運営委員会（第2回）
開 催 日 時	平成30年11月13日（火） 午前10時から午前11時30分まで
開 催 場 所	市役所第二庁舎1階 会議室2
出 席 者	金子 廣志 小林 奈々江 高橋 靖子 結城 美千代 石原 志穂 金澤 仁美 宇原 悦子 磯貝 幸子 土屋 賢治 萩原 宏枝 森田 和憲 吉澤 直美 一ノ関 知子 渡辺 哲也 三枝 努 川島 聡 金子 啓一 計17名
事 務 局 職 員	生涯学習スポーツ課 藤田主任、天倉主事、向山主事、福田主事、武嶋
会 議 内 容	1 開会 2 挨拶 3 議事 （1）子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について （2）子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び 結果について （3）新規開設校について （4）その他 4 閉会
会 議 資 料	・次第資料 ・委員名簿
そ の 他 の 事 項	特になし

審 議 の 内 容 (審議経過、結論等)

1 開会 (向山主事)

2 挨拶 (金子教育長)

3 議事 (運営委員会設置要綱第7条により金子委員長が議事進行)

(1) 子どもの放課後居場所づくり事業運営状況について (説明: 藤田主任)
(資料1~10頁)

- ・ 今年度は、以下の5点が昨年度からの変更点である。
 - ①学校代休日、県民の日などを休業
 - ②八石小学校、栄小学校で新規開設
 - ③東北、大和田ココフレンドに加え、東野、栗小、八石、栄ココフレンドの計6校で長期休業日の午後の開室
 - ④午後の見守り業務は6校ともシルバー人材センターに委託
 - ⑤6校で英会話、ダンス、科学実験の特別講座を委託で実施
- ・ 10月末現在の登録状況は、4割から6割の登録となっており、長期休業日の午後の開室をした6校の登録状況は、約6割である。
- ・ 昨年度10月末現在の数字と比較すると概ね同水準であるが、東野ココフレンド、栗小ココフレンドが約4%、20名程度の増加となっている。
- ・ 放課後児童保育室の夏入室者数を前年度と比較すると、栄小学校が13名、八石小学校が14名、東野小学校が25名減少しており、いずれも夏休みの午後の開室をした学校であった。反対に増加したのは、新開小学校が12名、石神小学校が17名、第四小学校が19名で、いずれも夏休みの午後の開室をしていない学校であった。
- ・ 既存校のココフレンドは、4月12日(木)から新2年生~6年生、4月17日(火)から新1年生の受入れを開始した。今年度新規開設した八石小学校と栄小学校では、5月31日(木)から開室し、開室から夏休み前までの参加人数は、八石ココフレンドが50名前後、栄ココフレンドが30名前後であった。
- ・ 1学期の日々の参加人数は30名~60名となっており、2学期は15名~50名となっている。また、これまでと同様、懇談会などの学校行事のある日やイベント実施日に参加が多く、100名を超えたココフレンドもあった。
- ・ 日没が早い10月20日から翌年1月末日までは、ココフレンドは冬時間となり、お迎えのない児童は午後4時30分下校となっているが、2学期になっても参加児童が多いココフレンドでは、保護者のお迎えも多いという特徴が見られる。
- ・ 夏休みの午後の開室をした6校について、午前のみ、午後のみ、1日参加の3種類の参加人数を比べると、どのココフレンドにおいても1日参加の児童が一番多くなっている。今年度から午後の開室をした東野ココフレンドと栗小ココフレンドでは、昨年度と比較して1日当たり20名程度参加人数が増加した。
- ・ 今年の夏は気候や天候の影響を受けることが度々あった。8月8日(水)

の午後と9日（木）、9月4日（火）は台風直撃の予報によりココフレンドは休室とした。また、体育館や校庭の利用を制限する日が多くあった。国から熱中症に対する注意喚起の文書も出され、ココフレンドでもいつも以上に子どもたちの体調管理に気を配っていただいた。

- ・ 英語、ダンス、科学実験の委託3講座のほか、夏休みのイベントとして、スポーツ推進委員によるラケットテニス、レクリエーション協会によるグラウンドゴルフとペタンク、ジュニアリーダーによるかるたレク、民間企業によるプログラミング教室、十文字学園女子大学の学生による理科実験教室などを無償で御協力頂いた。また、各ココフレンドにおいても独自のイベントを多数企画していただいた。

○各ココフレンドの活動状況報告

（東野、東北、野寺、大和田、八石ココフレンドについては、コーディネーターから報告、石神、新堀、四小、栗小、新開、栄ココフレンドについては、事前にいただいた報告を事務局が代読）

〈東野ココフレンド〉

- ・ 日々の参加人数は50名～60名である。夏休み中は平均90名程度で、多い日は150名を超える参加があった。
- ・ 夏休み中はたくさんの方に御協力頂き工夫して過ごしたが、特にカレー作りが好評だった。上級生が中心となって下級生の面倒を見ながら調理し、学校の先生方もお呼びして一緒にカレーを食べた。子どもたちは大変喜んでいた。
- ・ 冬時間になったが、毎日30名～50名の参加がある。そのうちお迎えは10名～20名程で、昨年比べて多くなっている。
- ・ 放課後、学校での緊張を解いてココフレンドを発散の場所に行っている子どもたちも少なくない。子ども同士の喧嘩もあるが、まず子どもの話をよく聴き、帰りの会で指導している。
- ・ 子どもたちは楽しそうに参加しており、スタッフにいろいろな話をしてくれるようになった。ココフレンドに来たらまず宿題をする、ということも定着してきている。

〈石神ココフレンド〉

- ・ 冬時間になり、日々の参加人数は40名～50名である。1学期に比べると10名程度少なくなったが、2学期の冬時間になる前と比べると大きな差はない。
- ・ 放課後児童保育室からの参加は1日1名～5名程度で、1学期と比べると2名～3名少なくなったが、その分、放課後児童保育室を退室してココフレンドのみの登録にした児童が増えている。
- ・ 冬時間になってからのお迎えのある児童は、全体の3分の2程度で、多くの保護者の方がお迎えに来ている。そのため、同じ方向に帰る児童が少なくなってしまう、1人になってしまうこともある。その場合は保護者に連絡をして、可能な限りお迎えをお願いしている。
- ・ 午後4時30分以降、お迎えのある児童はココフレンドルームでカルタやカードゲームをして楽しくお迎えを待っている。
- ・ 石神ココフレンドは開設から7年目になり、スタッフが高齢化してき

ている。スタッフのスキルを次の年代の方が受け継いでいけるよう、また、若い年齢層の方が継続して活動できる環境づくりをしていきたい。

〈東北ココフレンド〉

- ・ 最近では30名程度の参加で、とても落ち着いた活動ができている。
- ・ 子どもたちは学校の授業時間での緊張をココフレンドの入口で一気に発散するかのようになり、とても元気に来室する。
- ・ 特別な配慮が必要な子どもたちも少なくない。学校の先生方、スタッフと情報交換をしながら対応している。
- ・ 今年度は体育館の室温が35度を超えたら使用しないことにしたので、夏休みの半分くらいは体育館が使用できなかったが、事務局でイベントを用意していただき大変助かった。
- ・ 保護者対象のアンケートでは夏休みのイベントがとても評判が良く、日頃のココフレンドでももっとイベントをやってほしいとの意見をいただいた。以前はイベントを企画していたが、参加したがる子どもたちが多かったため、最近は申込制のイベントにしている。これからは折紙教室のような簡単なものも取り入れていきたい。
- ・ 東北ココフレンドでは学生のスタッフが増えており、今年の夏休みは6名の大学生が来てくれた。そのうち3名がスタッフの子で、親子で活動してくれている。新しい道筋ができてきたようで大変頼もしく思う。
- ・ 12月12日（水）に避難訓練を行う予定である。学校と放課後児童保育室と連携を取り、放課後、校庭に遊びに来ている子どもたちも一緒に避難訓練を行うという初めての試みである。教頭先生と相談をしながら準備を進めているところである。

〈新堀ココフレンド〉

- ・ 新堀ココフレンドは「ココフレンドで宿題を済ませた後に、校庭でみんなと遊ぶ」という考えで参加する子が多い。1年生が参加者の半分を占める日も多く、上半期は、1年生がココフレンドでの過ごし方をしっかり身につけられるような支援をしていくことに重点を置いた。
- ・ 工作教室は、低学年でもできるようにと、スタッフが工夫をしながら準備をして取り組んだ。参加した子どもたちが個性を発揮しながら作品を完成させ、たくさんの笑顔と喜びの音が聞こえた。
- ・ 高学年の参加が少なくなり、子どもたちの遊ぶ時間が少なくなっているように感じる。
- ・ 幼稚園の入園関係の行事があった日は、参加者が通常よりかなり多かった。このように保護者の都合で参加者が多くなる日もある。
- ・ 9月に実施した保護者対象のココフレンドのアンケート調査では、スタッフへの感謝の気持ちも多く届き、活動や存在意義も十分に認められているように思える。子どもや保護者の中にココフレンドが定着してきたように感じる。

〈四小ココフレンド〉

- ・ 1、2年生を中心に楽しく過ごしているが、友達同士のトラブルも多々あるので、スタッフも気を付けている。
- ・ 1年生の先生がココフレンドをのぞきに來てくれる時は、子どもたち

は大喜びである。

- ・ 学校行事の都合でココフレンドの活動時間が長くなった時は、スタッフが得意分野を生かし、楽しませてくれる。これからも子どもたちが喜ぶ楽しい企画を考えていきたい。

〈野寺ココフレンド〉

- ・ 夏休みは猛暑日が続いたため、図工室の冷房を効かせてゴザを敷き、DVDを流して、いつでも子どもたちがゆったりと休憩できるようにした。
- ・ 夏休みに毎年好評の、水鉄砲で遊んでアイスを食べる、というイベントを行った。ココフレンドはおやつがないので、子どもたちはとても嬉しそうにアイスを食べていた。
- ・ 10月はハロウィンイベントを行った。これまで1日でイベントを行っていたが、参加者が100名を超えてしまい、子どもたちが本当に楽しめていないのではないかという疑問があった。今回は各学年毎に日にちを設定したので、10月中はほぼ毎日ハロウィンイベントを行うことになったが、子どもたちはとても楽しんでいただけた。
- ・ 冬時間になり、3年生以上の参加が全くない日もある。参加者の約4割がお迎えだが、集団下校の子どもたちが一緒に帰る子がいるのか、という心配をするようになった。同じ方面に帰る子がいるかどうかを確認してから下校させるようにしている。
- ・ 町内会に回覧の御協力を頂きスタッフを募集したところ、7名の応募があった。12月から順次シフトに入っていただき、総勢20名で活動していくことになった。
- ・ 様々な家庭の事情で不満そうに参加している子もいるが、みんなが楽しかったと思えるような活動を続けていきたい。

〈栗小ココフレンド〉

- ・ 現在、全校児童405名のうち63%に当たる255名がココフレンドに登録している。概ね4年生までの参加が主となっている。開室4年目だが、スタッフもほとんど変わらないため、日々児童の情報交換を密にしながら活動している。
- ・ 今年度から夏休みの午後の開室を行うことになり、児童の安全を最優先にした活動場所の選定に苦慮した。参加者は予想を上回り、昨年度は平均約25名だったが、今年度は平均約43名の参加があった。
- ・ 夏休みは、事務局に用意いただいた5つのイベントとスタッフが計画したイベントを盛り込み、イベント以外の日は折紙や毛糸、布などを活用したミニ教室を実施した。台風のために急遽スケジュールが変更になったものもあったが、事務局や学校と連携を図りながら対応することができた。大きな事故や怪我もなく、無事に過ごすことができた。
- ・ 夏休みの午後の見守りをしてくれたシルバー人材センターの方も、少しずつ児童とのコミュニケーションの取り方に慣れ、楽しみながらサポートしてくれた。
- ・ 冬時間になっても参加者が減ることもなく、皆元気に活動している。

〈新開ココフレンド〉

- ・ 児童の来室後、宿題の時間と遊びの時間を決めて活動している。保護者からの要望もあり、宿題を頑張るように声掛けをし、遊びの時間にはスタッフも一緒に遊んでいる。
- ・ 竹を使った水鉄砲、木の実で作るブローチ、木工工作の色鉛筆やマグカップなど色々なものを作成した。また、紙飛行機を作って遠くに飛ばす大会も開催した。夏休みには巨大シャボン玉作りを実施した。放課後児童保育室の児童に参加してもらい、交流を図った。
- ・ 毎月テーマを決めて、教室の飾りを作っている。ココフレンドに入っていない児童に参加してもらうこともある。
- ・ 水鉄砲作りの時、児童が濡れた廊下で滑り、頭を打つ事故が起きてしまった。今後は活動場所の管理など十分に注意したい。
- ・ 個人的に支援が必要と考える児童にも対応できるようになってきたが、難しい課題もある。

〈大和田ココフレンド〉

- ・ 現在510名の登録があり、2学期に入ってから毎日約40名程の児童が参加している。
- ・ 夏休みは、事務局で用意していただいたイベントにたくさんの参加希望があったが、柔軟に対応していただいた。ダンスは170名、理科実験と英語には120名を超える参加があった。また、スタッフの知人による抹茶体験教室には150名を超える子どもたちで賑わった。今年の夏休みはスタッフが自主的にアイデアを出し、たくさんのイベントを行うことができたので、子どもたちも楽しく過ごせた。
- ・ 今年の夏は猛暑のために体育館も校庭も使用できないことが多く、部屋の中での子ども同士のトラブルが多かった。参加人数が多く活動時間が長いので、子どもたちもスタッフも大変エネルギーを要した。長期休業中の長時間の活動については課題があると思う。
- ・ 2学期に入ってから大変落ち着いている。個別に配慮が必要な場合も対応がしやすい。
- ・ 冬時間になり、お迎えが多くなっている。同じ方向の子がいなくて帰りが1人になってしまう場合には、ご家庭に連絡してお迎えに協力頂いている。
- ・ スタッフは高齢の方が多いが、とても張り切って活動してくれている。学生など若いスタッフがいてくれるとなお良いと思う。
- ・ 子どもたちとスタッフのつながりが日常に広がってきている。街で出会った子どもたちが声を掛けてくれることに、スタッフの方々がとても喜んでいる。また、スタッフ同士の交流もあり、ココフレンドが地域に新たな効果を生み出している。

〈八石ココフレンド〉

- ・ 今年度新たに開設された。登録児童は186名で、1学期の参加者数の平均は50名前後、2学期は30名前後と参加率が高い。
- ・ 夏休みは猛暑のため校庭と体育館が使用できなかったこともあり、平均24名と参加者が少なかった。1日中教室で過ごすことが多かったので、子どもたちはストレスが溜まったようだった。午後の見守りをして

いただいたシルバー人材センターの方々が、子どもたちと遊ぶことが得意な方が多かったので、大きなトラブルもなく過ごすことができ、大変ありがたかった。

- 全体的にイベントや工作をすることが多い。1学期はその日に来室した児童は全員参加にしていたが、2学期からは学年別に日にちを設定している。可愛らしく細かい作業をする工作は、男子にはあまり人気がなかったようだ。ハロウィンイベントには、70名程の子どもたちが参加し、工作や簡単な仮装をしたりして楽しんだ。
- 低学年は短時間で宿題が終わってしまうことが多く、その後の学習時間の過ごし方が難しい。
- 冬時間になって、お迎えが多くなり集団で帰る子どもたちが少なくなってきた。下校が1人になってしまう場合があるが、保護者のお迎えが難しく1人で帰さなくてはならないということがしばしばある。
- スタッフの登録人数が多く、協力していただく日数が希望より少なくなっている。放課後児童保育室や他のココフレンドに登録した方もいるようだ。

〈栄ココフレンド〉

- 栄ココフレンドのスタッフルームは英会話室として使用されている教室で、教室内に事務机、テレビ、教卓がそれぞれ2つとココフレンドの書庫等がある。机は折りたたみ可能なものを使用している。開設当初はスタッフの靴や荷物置き場が定まらず、スタッフルームへの出入りにも困惑があった。
- 1学期の参加児童は30名～40名程度で、日によっては椅子が足りないこともあったが、先に学習が終わった児童が席を譲るなど、微笑ましい光景が見られた。
- 学習の時間は低学年がすぐに宿題が終わり、時間を持て余すことがあるが、学習のプリント等を用意して対応している。また、スタッフルームの本が多くないので物足りない様子も見られる。
- 自由時間には、体育館ではドッジボール、鬼ごっこ、フラフープ、バドミントン等で遊ぶことが多い。特にドッジボールは高学年が入ると激しく投げ合うため、見守りに注意を払っている。校庭ではブランコ、うんてい、鬼ごっこ、サッカー、鉄棒、バドミントン等で遊んでいる。校庭が広いので手分けをして見守っている。トラブルがあった場合は、帰りの会で話し合うことにしている。
- スタッフが慣れてきたため、手分けをして活動ができるようになり、児童とのやり取りも楽しそうにしている。今後も、コーディネーターとスタッフとの意思疎通を図りながら、児童を見守っていきたい。

委員長 ココフレンドを放課後児童保育室の受け皿としていくには、それぞれのココフレンドと調整をしながら、長期休業中の午後の開設など事業の拡充を進めていきたいと事務局は考えている。また、内容の充実を図るために、イベントの委託や市内の大学に御協力頂いたりしているが、今後は地域の企業・団体ともコラボレーションができるとよいのではないか。

各ココフレンドからの報告で、100名を超える参加者があるなど子

どもたちのオアシスになっていることが窺える。昨今、大人と子どもがコミュニケーションを取れる場が大変少なくなっている中、ココフレンドや放課後児童保育室は貴重な場所になっている。

委員 お盆や台風でココフレンドが休室の日に、休室を知らずにココフレンドに来てしまった子がいた。事務局では把握していたのか。また、ココフレンドとしてはどのように対応したのか。

委員 (コーディネーター) ココフレンドのスケジュールは、ココフレンドだよりの中でお知らせしている。また、ココフレンドメールでも周知したが、全員がメール登録をしているわけではないので連絡が届かなかった家庭もあったようだ。

委員 (コーディネーター) 台風の予報で急遽休室になった日は、ココフレンドメールでお知らせをし、さらに、事務局からの指示で当日の受付時間にコーディネーターが待機して対応できる態勢をとった。

委員長 学校にも協力頂いて、子どもたちに休室のお知らせを伝えてもらえるとうい。

(2) 子どもの放課後居場所づくり事業アンケート実施及び結果について

(説明：福田主事) (資料 1 1～2 6 頁)

- ・ 今年度は、長期休業日の午前のみ開室の石神、新堀、野寺ココフレンドの保護者を対象にしたもの、長期休業日、1日開室した東野、東北、八石ココフレンドの保護者を対象にしたもの、長期休業日1日開室した八石ココフレンドの児童をを対象にしたものの3種類のアンケートを実施した。
- ・ 午前のみ開室、1日開室のどちらにおいても、参加児童の約50%は1、2年生であり、全体の6割程度が月に1回以上の頻度で参加している。参加理由については「子どもが行きたいとき」、「保護者が参加する学校行事があるとき」、「家庭を留守にしているとき」が多かった。
- ・ 長期休業日の開室時間については、午前開室のココフレンドでは約6割の保護者が短いと感じており、75%の保護者が午後も利用したいと考えている。適当と思う時間は、午前8時30分から9時開始で午後5時頃までという意見が多かった。1日開室のココフレンドでは、約9割の保護者が開室時間は適当であると回答しており、開室時間には満足していると思われる。
- ・ ココフレンドに希望することとしては、イベントを希望する意見が多く、具体的には今年度実施した「英語」「実験」「ダンス」「スポーツ」「プログラミング」に多くの意見が集まった。今年度実施したイベントの満足度の高さが窺える。
- ・ 児童対象のアンケートでは、参加して楽しい主な理由は「友達と遊べる」、「おしゃべりができる」で、楽しくない理由は「友達が参加していない」、「勉強したくない」というものがあつた。夏休みのイベントで楽しかったものは、「工作」という意見が最も多かつた。

委員長 課題はいくつかあるが、ココフレンドは子どもたちにとっても保護者にとっても大変充実して、楽しみな時間であることが窺える。

(3) 新規開設校について (説明：藤田主任) (資料 2 7～2 8 頁)

- ・ 第4次新座市基本構想総合振興計画後期基本計画に基づき、実施校の拡

大を図るものとして、西堀小学校と新座小学校の2校で新規開設することで調整を進めている。西堀小学校は3階の書写室を、新座小学校は2階の第二会議室を使わせていただく予定である。

- 来年度の新規開設校については、ココフレンドの人材確保や国の進める放課後児童保育室との連携という観点から、平成31年度から放課後児童保育室6箇所指定管理者となる民間事業者に、ココフレンドの運営も委託する予定である。
- 来年度のココフレンドについては、全ての開設校で長期休業日の午後の開室を目指して準備を進めている。

(4) その他（説明：藤田主任）（資料P29）
資料のとおり今後の予定について説明。

4 閉会（向山主事）